教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のＷｉｎ－Ｗｉｎの関係」の構築

東浦町ＳＰ通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 21 号
2024 年 12 月 23 日
編集　緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「わくわく算数教室」 準備会
～言葉を大切につかうこと～

１２月２２日（日）、いよいよ始まる片葩小学校の「わくわく算数教室」の準備会がありました。とても寒く、みぞれもちらつく日でしたが、ＳＰさんが颯爽と準備にかけつけてくれました。その姿は本当に頼もしい！わく算が、保護者の方や子どもたちから信頼の厚い学習会になっている１番大きな理由は、来てくれる学生さんが一生懸命子どもたちに向き合ってくれるからですが、もう１つは『準備の入念さ』だと思っています。席札の作成、会場設営、プリンターの設置など、細やかな部分まで配慮しながら準備していきます。この入念な準備のおかげで当日の算数教室がスムーズに進みますし、子どもたちも安心して学習に取り組むことができています。そして何といっても、ＳＰさんたちはいろいろな事に“気づく”のです。「足りないもの」「改善点」など、いろいろな角度から見て、教えてくれます。そうしたＳＰさんの声で、わく算は毎年パワーアップしています。毎回、感謝の気持ちでいっぱいです。

この数年、片葩小での活動の『特典』になっている、貝沼校長先生のお話。この日は、教職員用の資料を使ってお話していただきました。（教職員用の資料を見られるなんてすごい！と思ったＳＰさんも多いのでは？！こうした「嬉しい」「有難い」と思った経験が、教師になった時に子どもたちに還元されていきます。経験したポジティブな気持ちは宝です。）いろいろなお話がある中で、個人的に一番心に残ったのが**「子どもを子ども扱いせず、目の前の子どもの姿を否定せず、言葉を大切に使うこと。」**です。一部抜粋してお伝えできればと思います。

◉　ひと昔前は、多少荒っぽい言葉を使っても大きな問題にはなりませんでした。しかし、最近は繊細な子どもも増えてきて、こちらの意図していないことを深読みされることもあります。そうした時に、信頼の糸がプツっと切れてしまう。そうすると１年、とってもしんどくなります。
◉　先生は真面目な人が多いです。それ故に、子どもに求めるものも高くなりがち、願いも強くなりがちです。だからこそ、強い言葉（暴言）が出てしまうのかなあ……と思います。
◉　先生の指導一つで子どもが伸びるかどうかは分かりません。いろいろな機会、人との出会いが組み合わさって子どもは成長していきます。
◉　目標は高くて OK！志は高くて OK！でも、指導の一つ二つで何かが変わると思わずに、気持ちを楽にして子どもと接してみると良いと思います。

明日からわく算スタート！参加してくれるSPさん、よろしくお願いします。